



学校だより 5月号

文京区立第一中学校 令和4年5月13日(金)

心で感じる

校長 田島 佳子

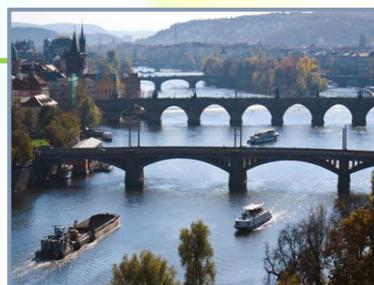
昨年も実施させていただきましたが、今年度も5月に全学年で校長による道徳の授業を行います。2年生は5月11日に2組で行いました。1組は14日に実施します。3年生は本日、5月13日に実施しました。1年生は5月25日と6月3日に予定しています。昨年は、保健の内容にも触れてコロナウィルスやワクチン、抗体についての講義の後に感染症に関わる活動やスピーチ等を取り上げました。今年度は、「命」と「自国の誇り」を取り上げます。

「命」については、発展途上国医療に命をかける小児外科医でジャパンハートの吉岡秀人氏の思いや活動の様子から考えてもらいます。

「自国の誇り」は、私の体験と世界で活躍する日本人を紹介する番組からです。7年前にプラハの日本人学校に勤めていた友人を訪ねた時にカレル橋が架かる雄大な河を見て「これがあの有名なスメタナ作曲「我が祖国」のモルダウなのね。」と言ったら、静かに首を横に振って「モルダウはドイツ語、この河はブルタバよ。」と教えてくれました。私が学生の頃は「モルダウ」と習いました。今の音楽の教科書には「ブルタバ (モルダウ)」となっています。そしてその後プラハの旧市街にある人形劇場に連れて行ってくれました。石造りの古い建物の小さな入り口のずっと奥にその劇場はありました。観光用の劇場は表通りに面していたり、すぐ劇場とわかるものや近代的なビルに入っている大きな劇場もあります。私を連れて行ってくれたのは、昔からある地元の人たちが行く人形劇場です。木彫りのマリオネットを操ります。何かから身を隠すような造りになっていました。プラハを首都とするチェコは、他の国に支配され自分たちの言葉であるチェコ語を禁止されていた時代がありました。このままでは子供たちがチェコの言葉や文化を忘れてしまう、と当時唯一チェコ語での公演を許されていた人形劇を必死で守ってきたそうです。それでも厳しいチェックが入っていたと聞いています。自分たちの言葉が話せない、文化を伝えられない、という状況を私たち日本人が想像するのは簡単なことではないと思います。今もチェコの人々はこのマリオネットによる人形劇を大事にしています。

「誇り」なのだと思います。

感染症の拡大が今もなお続き、自国を追われて他国へ避難する人々がいる状況において何よりも大事な命や守りたいものがあるということを「心」で感じてほしいのです。これはダメだよ。これはよくない。と「心」が純粹に思うものは、どんな理由であろうとあってはならないのです。



運動会 5月21日(土) に向けた練習風景

全員リレー



学年種目



ダンス 一中魂



防災宿泊訓練 4月22日(金) から23日(土)



5組校外学習 4月26日(火) パナソニックセンター 水の科学館



校長による道徳の授業

